



## 伊佐 宏子

ISA HIROKO

1941年 神奈川県横浜市生まれ

1946年 刈羽村へ

刈羽村滝谷にある、真言宗豊山派の「宝蔵寺」は、越後霊場三十三カ所の第五番札所に当たり、観音菩薩が安置されている。本尊の十一面観世音菩薩は上杉謙信公も深く信仰したと伝えられている。

江戸時代、上杉景勝が奥州米沢に国替えになった際、この観世音菩薩と阿弥陀如来像を船に乗せたが船が動かず、元のこの場所に安置したという逸話が残っている。そのため、この寺の山号は、不退山「宝蔵寺」と呼ばれている。

宝蔵寺では、毎年5月から6月頃になると、本堂裏手にある大ツツジが一面に白い花を咲かせる見事な景色がみられることで知られ、毎年市内外から多くの人が訪れている。

白い花を付けた大ツツジの木はいくつも重なり、大きな亀に見える、と話すのは宝蔵寺の住職の妻である伊佐宏子さん。結婚する以前は中学校の教員として働き、縁あって宝蔵寺に嫁いでからは、池坊華道教授、裏千家茶道師範として、現在も地域や学校などへ出向いて華道、茶道を教え、多くの人たちから親われている。

住職である伊佐智海さんに嫁いで10年ほどが過ぎたある時、朝起きると庭

一面に大ツツジの花が咲き、まるで雪が降ったような美しい庭の情景を見て、とても感動した。

家族だけでこの美しい景色を眺めるのはもったいない。近隣の方たちにも見てもらいたいと、宏子さんは義父に相談した。そして、昭和50年頃から、大ツツジの開花に合わせた「つつじ茶会」を開催し、約40年間ほど続けてきたと話す。

茶会では毎年、大ツツジがよく見える場所に茶席を設え、本堂では茶席を待つ人たちのために、庭で採れた竹の子、こんにゃく、じゃが芋、鯨を入れた煮物を作り振る舞った。智海さんが手作りした交通安全のお守り、本堂の見学など、多くの人たちが宝蔵寺を訪れ、賑わっていた。

懐かしいわね、と当時のことを話す宏子さん。中越沖地震では寺に被害もあり、また昨今のコロナ禍の影響も鑑みて、ここ数年は茶会を自粛している。だが、大ツツジを見に訪れる人たちには積極的に庭を案内し、お茶をふるまっていると話す。

今年の花の見ごろはこれから。「一面に白い大ツツジの花が咲いた中に、ちらほらと赤い花が見えて、それもきれいな。たくさんの人たちに見てもらいたい」とほほ笑んだ。



お問い合わせ

宝蔵寺

刈羽村滝谷1701

☎0257-45-2397